

2018 年度現勢調査の実施

2018 年4月から6月に 2018 年度現勢調査を行いました。

ただ、地区内のネットワークを中心とした情報収集であるために、十分な調査とは言えませんが、聴覚障害教職員の総数は489名となりました。2017 年度の退職者9名を昨年度の現勢調査報告の総数 475 名から差し引いて比較すると、23名の増加になります。今年度の新規採用者は25名でした。

<全体の傾向>

- 聾学校に聴覚障害教職員が在籍していない県は、高知県のみになります。
- 職種別に見ると、教諭が全体の74%を占めていますが、事務職など雇用形態の多様化により、微減傾向にあります。
- 年齢別に見ると、年齢が把握できない分を除いて、20 代が30%、30 代が35%、40 代が17%、50 代が10%、60 代が2%の割合となっています。20 代と 30 代で全体の 割を占めています。
- 県別に見ると、一番多いのは大阪府(59人)、次いで東京都(53人)でした。
- 定年退職後の再任用、新しい職種の設定など雇用形態の多様化がみられ、主幹教諭(首席)、学部主事(部長)など準管理職に就く教員もいます。